

文章の要旨をえらぼう

小6／文章を読んで、筆者の主張（要旨）としてもっとも適切なものを1つ選びましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 縄文時代のくらしを よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

縄文時代の人々にとって、クリの木は実を食べるためのものだった、と考えられてきた。ところが、青森県にある大きな集落のあとでは、家や大きな建物の柱に、太いクリの木が使われていたことが分かった。まわりにはクリの林が育てられていたらしい。縄文の人々は、クリを食べ物としてだけでなく、建物をつくる木材としても育てていたのだ。

- 1 縄文の人々は、野山のクリを拾い集めて、冬の食べ物をたくわえていた。
- 2 縄文の人々は、野山のクリを拾い集めて、柱にする木材を手に入れていた。
- 3 縄文の人々は、クリの林を育てて、柱にする木材を手に入れていた。
- 4 縄文の人々は、クリの林を育てて、冬の食べ物をたくわえていた。

2 心臓を よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

体を動かすとき、脳が手や足の筋肉に命令を出す。では、心臓も脳の命令で動いているのだろうか。実は、心臓には自分で動くしくみがあり、ねむっているときも、脳からの命令を待たずに、規則正しく動き続ける。脳からの知らせが関わるのは、動く速さを変えるときなのである。

- 1 心臓は、脳の命令を待たずに自分で動くことができる。
- 2 心臓は、運動をすると動く速さがだんだん上がっていく。
- 3 心臓は、全身に血液を送り出すポンプの役目をする。
- 4 心臓は、脳の命令を受けて一回ずつ動いている。

3 言葉の使い方を よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

「全然」は、「全然おいしくない」のように、打ち消しの言葉といっしょに使うのが正しいと言われることがある。けれど、明治時代の小説には、打ち消しのない「全然」の使い方も見られる。今「正しい」とされる言葉の使い方も、時代とともに移り変わってきたものののだ。

- 1 言葉は、正しい使い方を守って使うことが大切だ。
- 2 言葉の正しい使い方は、話す相手によって変わるものだ。
- 3 言葉の正しい使い方は、地方によってもちがっている。
- 4 言葉の正しい使い方は、時代によって変わってきた。

4 町の祭りを よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

わたしの町の祭りは、子どもの数がへり、みこしをかつぐ人が足りなくなっていた。思い切って、小さな子ども用のみこしを作ってみた。すると、それを見に来る親子が多くなり、通りは前よりにぎやかになった。けれど、かつぐ人はやはり足りず、大人のみこしは今年も車にのせて運んだ。

- 1 祭りは、形を変えて新しくすると、かつぐ人がふえる。
- 2 祭りは、形を変えて新しくすると、見る人がふえる。
- 3 祭りは、昔のやり方を守り通すと、かつぐ人がふえる。
- 4 祭りは、昔のやり方を守り通すと、見る人がふえる。

文章の要旨をえらぼう【こたえ】

小6／文章を読んで、筆者の主張（要旨）としてもっとも適切なものを1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

答えと、たしかめるところ

1 答え：3

柱に『太いクリの木が使われていた』『クリの林が育てられていた』とあり、『建物をつくる木材としても育てていた』とまとめています。たくわえのことは書いていません。

2 答え：1

『心臓には自分で動くしくみがあり…脳からの命令を待たずに…動き続ける』とあります。血液を送ることは書いていません。

3 答え：4

明治時代の小説には『打ち消しのない「全然」の使い方も見られる』とあり、『時代とともに移り変わってきた』とまとめています。ほかは、本文に書かれていないか、本文と食いちがいます。

4 答え：2

子ども用のみこしを作ると『見に来る親子が多くなり』にぎやかになった。けれど『かつぐ人はやはり足りず』とあります。

読み取るコツ

「しかし」「実は」のあとや、終わりの一文に、筆者の考えが置かれることが多くあります。

文章の要旨をえらぼう

小6／文章を読んで、筆者の主張（要旨）としてもっとも適切なものを1つ選びましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 えどの町を よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

えどの町には、古着屋、古い紙を買い集める紙くず買い、かまどの灰を買う灰買いなど、使い古した物を集めて売る商売が数多くあった。集められた灰は、肥料などとして、ふたたび役立てられた。えどの人々は、心がけだけでなく、物がめぐる町のしくみの中で暮らしていたのである。

- 1 えどでは、使い古した物を買い集める商売で、ごみが出なくなった。
- 2 えどでは、人々の物を大切に作る心がけで、物がめぐっていた。
- 3 えどでは、人々の物を大切に作る心がけで、ごみが出なくなった。
- 4 えどでは、使い古した物を買い集める商売で、物がめぐっていた。

2 植物と水を よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

根から吸い上げた水は、どうやって高い木のてっぺんまで上がるのだろうか。かぎは葉にある。葉の表面の小さなあなから、水が水蒸気となって出ていく。すると、くきの中の水が上へ引っばられ、根から新しい水が吸い上げられる。水を外へ出すことが、水を取りこむ力になっているのだ。

- 1 葉から水が出ていくことで、根から水が吸い上げられる。
- 2 根が水をおし上げることで、葉の温度が下がる。
- 3 根が水をおし上げることで、根から水が吸い上げられる。
- 4 葉から水が出ていくことで、葉の温度が下がる。

3 地図の向きを よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

地図は北を上にしてかくもの、と思っている人は多い。しかし、昔の日本の地図には、都のある方や、ながめのよい方を上にしたものもあった。今の地図の多くが北を上になっているのは、向きをそろえておくと、読みまちがえにくいからだ。北が上なのは、自然の決まりではなく、人がそろえた約束なのである。

- 1 北を上にするのは人の約束で、地図をかきやすくするためだ。
- 2 北を上にするのは人の約束で、読みまちがえを防ぐためだ。
- 3 北を上にするのは自然の決まりで、地図をかきやすくするためだ。
- 4 北を上にするのは自然の決まりで、読みまちがえを防ぐためだ。

4 体をきたえるを よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

運動をした直後の筋肉には、目に見えないほどの小さな傷ができています。体は、休んでいる間にその傷を直し、前よりも少し強くつくりかえる。だから、休まずにはげしい運動を続けると、直すひまがなく、かえって力がのびにくい。体が強くなるのは、運動のあと、休んでいる間なのだ。

- 1 体は、はげしい運動をしている間に、力がのびていく。
- 2 体は、はげしい運動をしている間に、けがをしにくくなる。
- 3 体は、運動のあとに休んでいる間に、力がのびていく。
- 4 体は、運動のあとに休んでいる間に、けがをしにくくなる。

文章の要旨をえらぼう【こたえ】

小6／文章を読んで、筆者の主張（要旨）としてもっとも適切なものを1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

答えと、たしかめるところ

1 答え：4

紙くず買い・灰買いなど『使い古した物を集めて売る商売』があり、『心がけだけでなく、物がめぐ
る町のしくみ』とまとめています。ほかは、本文と食いちがうか、本文に書かれていません。

2 答え：1

『かぎは葉にある』。水が出ていくと『くきの中の水が上へ引っぱられ、根から新しい水が吸い上げ
られる』とあります。ほかは、本文と食いちがうか、本文に書かれていません。

3 答え：2

北が上なのは『自然の決まりではなく、人がそろえた約束』で、向きをそろえると『読みまちがえに
くい』からだ、とあります。

4 答え：3

体は『休んでいる間に…強くつくりかえる』。休まず続けると『かえって力がのびにくい』とありま
す。ほかは、本文と食いちがうか、本文に書かれていません。

読み取るコツ

「しかし」「実は」のあとや、終わりの一文に、筆者の考えが置かれることが多くあります。

文章の要旨をえらぼう

小6／文章を読んで、筆者の主張（要旨）としてもっとも適切なものを1つ選びましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 スポーツのきまりを よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

バレーボールでは、昔はサーブ権を持つチームしか点を取れなかった。そのため試合が長引き、終わる時間が読めなかった。今は、どちらのチームもラリーに勝てば点が入るきまりに変わり、試合の時間が短くそうようになった。スポーツのきまりは、見る人やする人に合わせて作り変えられてきたのだ。

- 1 スポーツは、きまりを守って正々堂々で行うことが大切だ。
- 2 スポーツのきまりは、選手のけがを防ぐために変えられてきた。
- 3 スポーツのきまりは、道具の進歩に合わせて変えられてきた。
- 4 スポーツのきまりは、楽しむ人のために作り直されてきた。

2 手で食べるを よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

インドなどでは、食事を手で食べる人が多い。はしやフォークを使わないのは、ぎょうぎが悪いからではない。ごはんとおかずを指先で混ぜ合わせ、温かさや手ざわりも味わうという考えがあり、食べるときは右手を使うといった作法もある。食べ方のちがいは、それぞれの土地の考え方に根ざしているのだ。

- 1 手で食べる習慣には、その土地の気候と作物が関わっている。
- 2 手で食べる習慣には、その土地の考え方と作法がある。
- 3 手で食べる習慣は、昔の食べ方がそのまま残ったものだ。
- 4 手で食べる習慣は、道具が手に入らない土地で生まれた。

3 里山の林を よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

林は、人が手を入れずにそっとしておくほうが、豊かな自然が守られると思われがちだ。しかし、かつての里山では、人々が木を切ってまきにし、落ち葉をかいて肥料にしていた。そのおかげで林の中まで日が差しこみ、カタクリなどの草花が育った。人が手を入れなくなった林では、こうした草花がへってきている。

- 1 里山は、人が手を入れ続けることで、草花が育ってきた。
- 2 里山は、人が手を入れ続けることで、動物がふえてきた。
- 3 里山は、人が手を入れずにおくことで、動物がふえてきた。
- 4 里山は、人が手を入れずにおくことで、草花が育ってきた。

4 紙の橋を よんで、この文章の要旨として、もっとも適切なものを1つ選びましょう。

紙でつくった橋に、どれだけ多くのおもりをのせられるかを競った。はじめは、あつい紙を何まいも重ねて、二十個のおもりをのせた。次は、うすい紙を折り曲げて、三角の柱をならべてみた。のせられたおもりは同じ二十個だったが、使った紙は半分ほどですんだ。

- 1 紙の橋は、形を工夫すると、多くのおもりをのせられる。
- 2 紙の橋は、あつく重ねると、多くのおもりをのせられる。
- 3 紙の橋は、形を工夫すると、少ない紙ですむ。
- 4 紙の橋は、あつく重ねると、少ない紙ですむ。

文章の要旨をえらぼう【こたえ】

小6／文章を読んで、筆者の主張（要旨）としてもっとも適切なものを1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

答えと、たしかめるところ

1 答え：4

点の入り方が変わり『試合の時間が短くそうようになった』とあり、『見る人やする人に合わせて作り変えられてきた』とまとめています。

2 答え：2

手ざわりも味わう『考えがあり』『右手を使うといった作法もある』とあります。ほかは、本文と食いちがうか、本文に書かれていません。

3 答え：1

木を切り落ち葉をかいたおかげで『日が差しこみ…草花が育った』。手を入れなくなると『草花がへってきている』とあります。ほかは、本文と食いちがうか、本文に書かれていません。

4 答え：3

三角の柱にしても『のせられたおもりは同じ二十個』だったが『使った紙は半分ほどですんだ』とあります。

読み取るコツ

「しかし」「実は」のあとや、終わりの一文に、筆者の考えが置かれることが多くあります。